

那珂川下流部の沖積平野の地形について

三 上 靖 彦 (自然学類)

那珂川下流部の沖積平野の地形面区分と、微地形の細分を行なった結果、発達する微地形の形態が地形面によって異なることがわかった。

沖積平野は、高位のものよりA I面、A II面、A III面の3つの地形面に区分される。A I面は、最終氷期後半に形成された沖積埋没谷を、約5,000～4,000年前の海進期に埋積して発達した面である。A I面はその後の、約3,000～1,500年前の小海退期に対応して形成されたとと思われる浅い谷によって開析された。A II面は、この浅谷を埋積して発達した面である。A III面は、このA II面を刻んで発達した、現在の那珂川の氾濫原である。

A I面には、A II面との境の河食崖に沿って微高地が連続し、その微高地と谷壁あるいは段丘崖との間に低地が広く発達している。微高地の堆積物はシルトで、低地は粘土または泥炭である。A II面には河食崖が多くみられ、数条の微高地とその間の浅い凹地という形態の微地形が広く発達している。微高地の堆積物は砂質シルト～シルトで、凹地ではシルト～粘土である。A III面には、

A II面と同様の微地形が発達している。堆積物はA II面よりやや粗粒で、微高地では砂～シルト質砂、凹地ではシルトである(第1図)。

A I面の微高地は、その形態から、河道沿いの微高地として発達した自然堤防であると思われる。そして、広い低地は後背低地であろう。A II面、A III面に発達する微高地とその間の凹地は、河道が水平的に下流側と攻撃斜面側とに移動するにつれて、滑走斜面側につくられる高まりと低まり、すなわち、メアンダースクロールであろう。

微地形とその堆積物から、各地形面を形成した河川の河道特性を推察すると、A I面は、メアンダースクロールが発達せずに自然堤防と後背低地だけが発達していること、および堆積物が非常に細粒であることから、河道の移動が殆んどなかった三角州性の河川によって形成された地形面であると思われる。A II面、A III面は、メアンダースクロールが広く発達していることから、河道の移動が激しい、蛇行河川によって形成された地形面であろう。

